

## 令和2年度 第1回苫小牧市総合戦略推進会議 議事録要旨

- 【日 時】 令和2年11月19日（木）14:00～15:30
- 【場 所】 苫小牧市役所9階 議会大会議室
- 【出席者】 佐藤(郁)会長、菊田副会長、成田委員、大津山委員、佐藤(聰)委員、大沼委員、鎗水委員、山上委員、甲谷委員、片石委員、半澤委員、千葉委員、畑中委員、佐々木委員
- 【事務局】 苫小牧市 総合政策部 木村部長、政策推進室 山田室長、政策推進課 茶谷課長、横部課長補佐、榊田主査

---

### 議 事 次 第

---

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長及び副会長の選出
- 4 議題
  - (1) 人口ビジョン及び総合戦略について
  - (2) 第1期総合戦略について
  - (3) 第2期総合戦略について
  - (4) 令和2年度の取組状況について
  - (5) 意見交換（自己紹介、質疑を含む）
- 5 その他
- 6 閉会



## 4 議題

### (4) 意見交換

#### <A 委員>

特に意見というのではないが、資料にある各指標、目標、KPI、特に合計特殊出生率は、かなりハードルが高いという印象を持っている。

私ども地域金融機関は、地域があって存立していることもあり、卒業した学生を地域に呼び込む教育資金の商品化や、婚活事業、企業版ふるさと納税を利用した事業承継の活用策などを実施しているが、まだ足りないので、これからもやっていきたい。

今回、様々な立場から参加されている方がいらっしゃるのので、色々な意見を参考に、少しでも総合戦略の力になれるよう協力したいと思う。

#### <B 委員>

人口問題について、今年の住みよさランキングが発表になり、苫小牧は北海道で3位となった。

算定基準では、気象条件や積雪などの自然条件でランクアップした点もあったが、交通事故や医療などの安全性の項目では、ランクダウンした。

苫小牧が住みやすいまちとして、北海道の中でぜひ第1位にランクアップし、自然増だけでなく、先日、大きな企業が淡路島に本社を移したところもありましたが、他都市から企業の移動、個人の移住などを進めて欲しい。

新型コロナの影響で、本社機能の移転を考えている企業もあると思うので、苫小牧を選んでいただけるよう、住みよさという点をアピールできるとよいと思っている。

今回、ランクダウンした、医療の中でも、介護施設等のサービス、施設の充実、大きな病院の体制などについて、評価を上げていく必要があると思っている。

女性が就労する際に、子育てに手を取られることに加え、最近は家庭内での介護の問題が増えている。

介護が発生した場合に、どうしても女性が一番先頭になり離職をして家庭内で見なければならず、これにより労働力にも陰りが出ると考えている。

また、感染症が広まった際に、お年寄りが待合室の密を嫌って受診しないことや、在宅の方の通院の負担が非常に大きいことを踏まえて、医療関係のデジタル化を進め、様々なサービスを向上し、安全性や介護の充実などでランクアップをし、来年の住み

よさランキングで北海道の1位にして欲しい。

そこで、新たな移住者、それから企業の移転に注力し、人口増に効果を上げていければなと思っている。

#### <C 委員>

説明を聞いた中で、雇用に関して非常に興味を持った。

私は、青年会議所の立場で来ているが、一市民として会社に入って仕事をしている身でもあり、従業員不足が非常に課題となっている。

先ほど、雇用促進の取組について説明があったが、これらの施策を事業者自体がどこまで把握しているのか、というところが正直なところである。

北海道から委託を受けた会社が、正社員を希望する方を集めて、地元の企業に派遣し、正社員に登用するといった事業を行っている会社もある。

やはり雇用がなければ、財政面や生産性の向上に結びつかず、市民が先行きに不安を感じていては、出生にも結びつかないと考える。

資料には、これから大事にしていくべきところが掲載され、本当に感銘を受けるような事業をたくさんされているが、これらを市内17万人のどれだけが理解をしているのかが課題と考えており、広報に力を入れていくべきではないかと思っている。

また、SDGsについても、最近よくCMなどで耳にすることはあっても、一体何なのかを分からない方が非常に多いと思うので、根本的な部分を理解した上での行動してもらえよう、広報などが必要と感じた。

#### <D 委員>

私は、苫小牧観光協会からの推薦のため、基本目標3の地元の魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進、交流人口の拡大について、意見を述べたい。

観光協会としては、市外からより多くの方が宿泊や日帰りでも来ていただけるように取り組んでいるほか、市民向けにアルテンのイベントや港まつり、スケートまつり等、今年は残念ながら中止になったものもあるが、これらの事業を中心に行っている。

交流人口の拡大を一生懸命やっていくと、我々が気づいてない苫小牧の魅力を感じていただき、少ないですが、実際に移住されるというケースも耳にする機会がある。

例えば、フィギュアスケートの日本トップ選手が白鳥アリーナで長らく合宿をしていて、春からついに苫小牧に移住されて、今、市内のフィギュア界が活気づいていたり、市内出身の方が東京や札幌の飲食店で修行し、20~30代で戻ってきて、人気の

お店を経営しているといった形が最近目立ってきている。

我々が気づかない魅力というのをやはり苫小牧以外の方に感じていただき、実際に移住につながる活動ができればと考えている。

また、私は、苫小牧市大会等誘致推進協議会の副会長も務めており、これまで苫小牧はスポーツ合宿の先進地だと思っていたが、昨日見た資料によると、道内の先進地は、陸上合宿で有名な士別、網走、深川などであった。

苫小牧はアイスホッケーのまちであることから、合宿に関しては上位だと思っていたが、実は釧路の3分の2程度で、釧路の方がアイスホッケー合宿も随分多かったほか、陸上やサッカーも多く受け入れている。

私は、20年ぐらい合宿誘致に携わっているが、リンクもびっしりでこれ以上の受入は無理だと思っていたが、まだ、伸び代があると感じている。

スポーツ合宿で多い種目は陸上と考えていたが、実はサッカーのようで、その先進地である日高町には、サッカーグラウンドが複数あり、高校生が大挙して合宿に来ているという実態があった。

私は、長らく陸上とアイスホッケーばかりを追っていたが、色々な競技があるので、合宿誘致、大会誘致を一生懸命行い、交流人口をどんどん増やしていきたいと考えている。

#### <E 委員>

課題の若年層の転出については、私たちも学生を預かっているが、7割近い学生が道外に出ていっている状況が続いている。

やはり学生の立場では、市内企業のことを知る機会が非常に少なく、どのような会社があるかを分からない状況で、先輩方が行っている企業を選択する傾向が続いている気がする。

学校では、少しずつ市内企業に協力を得て先生を務めていただき課題解決型の授業を展開しているほか、市の協力のもと、市内企業を回るツアーも実施している。

学生の中で、市内企業についての認知が広がり、意識にも変化が起こっているようなので、周知という地道な作業も必要だと感じている。

一方で、学生の声は、苫小牧のまちを決して魅力的だと思っていない状況があると感じており、学生は駅周辺に集まるが、ほかの都市と比べて店舗など魅力を感じるものが無いようなので、何か仕掛けを考えることが必要だと考えている。

また、観光の面でも、新たに中央インターチェンジがオープンするが、ただできた

だけでは、下りてくれないと思うので、そこにも苦小牧の魅力を感じさせるような仕掛けづくりが必要な気がする。

最後に交通の話があったが、東西に長いまちであることから、バスは貴重な足である。

これまでとは異なり、ルートや系統を持たず、I TやA Iを駆使しニーズに合わせて配車していきようなことができると考えており、合わせて駅前に素晴らしいバス乗り場ができれば、駅の魅力向上にもなる。

## <F 委員>

着任して1年半近くになるが、その中で苦小牧は、いろんな可能性があるまちだと感じている。

今回の議題である、人口対策を含めて、まちづくりのポイントは、大きく3つあり、1つ目が雇用問題、2つ目が教育・子育ての問題、3つ目が交通の問題と考えている。

1つ目の雇用問題について、市内には様々な企業が立地しているが、これらの企業からは人手が足りず、地元の学生さんに入ってきて欲しいが、来てくれないという声を聞くことが多い。

つまり働く場所があるものの、本人たちが働きたい思うところがなかなか見つからないというのが実態ではないか思っている。

我々、親世代としては、名の通った一流会社に勤めてなさいと言うところだが、市内にもキラッと光る会社がいくつもあるので、企業から情報発信することはもとより、まち全体として雇用の場を紹介し、露出を高めていく必要があると考えている。

また、企業誘致については、苦小牧は進んでいると認識しているが、昨今は、異常気象や新型コロナなど、本州の環境が良くないことから、一部の企業には本州を抜け出して、北海道にワーケーションや本社機能を移す動きもあり、地域とし受入れの動きを強化していくべきと考えている。

これにより、有名企業の本社が苦小牧にあれば、ここで働きたいという人も増えてくると思う。

2つ目、教育、子育てについては、市内の保育所の環境は、極めて良いものと思っている。

様々な店で勤務をしたが、子育てをしているうちの職員は、保育所にお世話になっており、他のまちと比較して短期間に保育所に預けられていると感じている。

これは非常に重要なところで、小学校低学年ぐらいまで安心して預けられるところ

を引き続き充実させていくことにより、安心して働ける環境ができると考えている。

3つ目は、交通の問題で、このまちは、車が非常に多く、道路も広いため、車もスピードを出している。

高齢化が進む中で、交通事故への懸念が増えていくほか、全ての人が車を運転するわけではないので、運転しない人たちの移動手段が非常に脆弱だと思っている。

1つの理想型としては、ITを駆使してアプリ等を開発し、乗合バス、コミュニティバスを充実することができれば、高齢の方の足を確保につながるほか、車のない方の働く機会を確保することにつながると思っている。

いずれにしても、今世の異常気象や新型コロナの問題など、今までとは前提が大きく変わっており、前例にとらわれず、新しい発想でこの第2期に取り組んでいくことが肝要かと思っている。

#### <G 委員>

私は、連合苫小牧で副事務局長を務めている中で、今回の資料にある4-2の「多様な産業集積（高度化）の推進」について、特徴的な話をしたい。

春先に新型コロナの影響で、農業や漁業の1次産業分野で、ベトナムなどから外国人技能実習生が来ることができず、繁忙期に人手が足りないという相談が連合北海道からあり、連合北海道は北海道とも協議して、この地域は胆振総合振興局が中心となり、調整した経過がある。

この時期にホテル業界では、宿泊客が減少し賃金の支払いも難しくなるものの、回復後のことを考えると何とか雇用を維持したいと悩んでいた時期でもあり、このような状況に対して、社会保険などを整備した上で、人が足りないという業種に、一時的な手伝いを紹介することができないかという取組を行った。

残念ながら、市内では、この取組が具体的に発展することはなかったが、全道的に様々な動きがあった。

そこで思ったのは、今回に限った話ではなく、社会生活を支えているホテル業界、金融業界、交通関係などで大きな変化があり、大変な状況になっており、今までの感覚で仕事を続けていくことは非常に難しいと考えている。

新しい北海道スタイルと知事が表明しているが、極端な話、産業構造の改革が始まりつつあると思っている。

スマートシティ構想など、AIを活用した交通や輸送といったこともこれから変化していく可能性があるほか、リモートに代表される、職住が隣接しなくてよくなり、

働き方も変わっていくと考えている。

そういった中で、市が打ち出す、「多様な産業集積の推進」についても、様々な意味があると思う。

#### <H 委員>

事前の資料を拝見し、第2期総合戦略は、1期目と比較し、大筋で変わらずに推移していると認識している。

苫小牧市の保育料の無償化と多子世帯の3人目以上の無償化については、無償化と聞いて、現在、全世帯が無償と思われるが、実際には3歳以上で、一番保育料の高い0～2歳は有料となり、住みやすいまちを考えたときに、斬新で先進的な施策をすることで、若い世代が住みやすいまちにつながっていくと考えている。

また、市内の保育園を利用する保護者は、市内出身で近くに親がいる方もいるが、転勤族や共に市外出身の方も多くおり、お子さんが熱を出した場合や、ご両親に何かがあり時間内での保育が難しいときの送迎などの相談が多々ある。

その際には、苫小牧市のファミリー・サポート・センターの活用を推奨し、公的支援も受けながら子育て一緒に頑張っていきたいと、私たちが精いっぱい補助事業もやりながら、保育を進めている。

その中で、第2期総合戦略の49ページで、ファミリー・サポート・センター事業等の数字の推移を見ると、平成30年度の数値より令和6年度の目標値の数値が下がっていたり、ほとんど変わっていないという状況であり、確かに人口の減少の影響もあると思うが、これが果たしてこれが妥当な数値なのかが私も図りかねるところだと思っている。

また、市内の保育所事情として、0歳～2歳の子どもを預かる小規模保育園が増えており、市内全体で子どもの数が減っているものの、小さな子を持つ働くお母さんの要望が多いことが伺われる。

しかし、施設が増えても、保育士の確保が難しく、定員まで受けられていない保育園もあるということも聞いている。

さらに最近では保育の多様化により、福祉だけでなく様々な形態の保育園が入ってきており、企業型の保育園では、数年間の勤務を条件に看護学校の費用を援助し、保育士確保を始めているところもあると聞いている。

保育園が受皿を拡充することで、子どもを預かるキャパが増え、お母さん方が働きやすく、そして、社会に参画する方々が増えていくことを考えると、保育士確保にも

目をそらさずにはいれないと感じている。

さらに、コロナ禍で子どもたちが家から出て遊ぶことができない中ではあるが、全天候型で0～4歳の幼児が、保育園や幼稚園が休みの時でも遊べて、お母さん方も安心して交流できる場所があれば、さらに子育てしやすい環境に近くづくと思う。

#### <| 委員 >

苫小牧は平成25年に北海道で初の男女平等参画都市宣言を行い、平成29年に日本女性会議を開催し、2,000人の方が全国から集まって、様々な課題に対して検討を行った。

私は、去年の男女模擬議会で、福祉部門に入り、その中に若い子育て中のお母さんがいたことから、安心して子どもを産み育てられる苫小牧というテーマに沿って検討した。

今は、イクメンなど、夫婦での子育てを推奨し、企業にも手伝ってもらい、ご主人が休業してもお給料が出るという話がありますが、これが進んでいないことが多いと若いお母さんから聞いた。

この会議の中で、実現したことの一つに、市役所1階にキッズコーナーあるのですが、若いお母さん方が市役所に用事を足しに子連れで来ると、子どもを預けるところがなく、書類の記載がままならないという話があり、私たちの考えだと、親に預ければと簡単に思うが、地方から転勤してきて身内がおらず、預けられない方もいますので、あのコーナーを実現できたのは、嬉しく思っている。

ただ、そちらに保育士さんがいていただけるようお願いをしたが、法律上の問題により叶わなかった。

私は男女平等の団体から来ており、子育てや介護は、男女とともにするのが定説ですが、現実問題はできていないことが多く、実際にこれらをされている方の話を聞く機会を設けることが大切だと思っている。

総合戦略の基本目標2-3に「市民・団体研修派遣事業」として、男女平等参画に関する全国規模の研修会の記載があるが、これは、東京、埼玉の嵐山にある国立女性教育会館で毎年8月の末に行っている。

本州の大学だと、これに参加することで単位がもらえることもあり、若い方の参加も多く、刺激が大きいので、青年会議所や中小企業家同友会など、1人でも多くの市民に参加いただき、苫小牧に多くのことを持ち帰って欲しい。

私は、個人では独り親を支える会を担当しており、7年前から学習塾を行っている。

今は、高専の学生が8名、室工大の学生が2名、ボランティアで生徒に勉強を教え  
てくれているが、来年就職する4名の就職先は全て本州となっている。

先輩の仕事を見て魅力を感じて行くそうですが、苫小牧に何か魅力があれば、市内  
に勤務先を見つけたのではないかと思う。

#### <J 委員>

私は、PTA連合会として参加しているが、民間企業で勤務するサラリーマンで、  
苫小牧港での港湾荷役、倉庫荷役、そして、輸出、輸入などに携わっている総合物流  
の会社です。

北海道の物流は、苫小牧が断トツの1位で、日本でも5本の指に入る物流を誇って  
おり、同業他社も含めて近年は人手不足が発生していたが、最近は、新型コロナの影響  
なのか、少し物流が落ちてきており、仕事も減ってきているという話も耳にする。

人口ビジョンを考える上で、まずは、目の前にある新型コロナ対策をして、安全・  
安心に荷物を運べるようにする必要があるが、物流の仕事は、作業員だけではなく  
様々な職域がありあまり知られていない。

他の委員言うとおりの、学生は市内にある企業や仕事の大半を知らないと思うので、  
札幌や東京の方に進学すると、結局知る機会もなく市外に就職してしまうのだという  
ことを痛感した。

以前、学生を対象に調査をしたところ、苫小牧に港湾業があることを半分以上が知  
らないという結果であったが、実際の港湾荷役業の業界は、年収も比較的悪くなく、  
非常に生活面も安定していると思っている。

このような仕事があるのに、知らずに地方に就職し、あまり肌に合わない仕事をし  
ていたり、転勤で大変な思いをしている人を見ると、巡り合わせなのかと思いつつ、  
苫小牧として、このような魅力ある仕事を周知していければ、市内に居住する若者も  
増えて、まちが活性化してくのではないかと思う。

#### <K 委員>

人口の問題については、今の苫小牧の人口と比較して、参考になるのは釧路である  
と考える。

釧路は、日本製紙が製紙部門を撤退し、一部の発電部門を残すそうだが、関連企業  
入れて500人の雇用が無くなるとのことで、恐らく人口は5,000人減ると思う。

苫小牧と釧路は、人口規模が似ているが、釧路は10月から9月までで1,181人減

っているのに対して、苫小牧は139人で、1,000人以上釧路のほうが社会減となっている。

また、自然増は、釧路の方が高齢化が進んでいるため、1年間で1,438人減っていて、苫小牧は792人と、ほぼ半分程度となり、苫小牧の方がはるかに若く、未来のあるまちなのだろうと思う。

苫小牧を取り巻く環境を考えると、物流は非常に大きな強みだが、釧路と同様に紙も非常に重要な産業であり、紙はこの後どうなるのかという面はあるが、まちの成長について全道各地と比較すれば、非常に良いのではないかと思う。

この委員会は、苫小牧の魅力の発見と、魅力をつくり出すことが、将来を展望するこの会議の一つの仕事なのではないかと考えている。

昨年度の委員会は、途中から新型コロナの影響で書面会議に代えますということになったが、未来展望をやるという委員会なので、リモートでテレビ会議などをやっても良かったのではないだろうか。

中学校でも進んでいる所では、リモートで授業をやっているのだから、そう考えると、まだまだ苫小牧の魅力をつくり出す要素がたくさんあるのではないかと考えている。

今回の任期の間に苫小牧の魅力をいかに発見するか、つくり出すかということに意見を出せればうれしいなと思っている。

## <L 委員>

総合戦略推進会議は、主に人口のことを議論する会議なのか、それ以外のことも議論するのか？

1つ目は、人口に関して、外国人を増やすべきだと考えている。

他の市町村でも移住促進や、Uターン、Iターン、Jターン等を繰り広げているが、国内同士でやってもバツティングするだけになるので、近年増加する外国人を、来てしまったという状況でなく、呼ぶ体制、定住していただく体制づくりが人口減少抑制に大きな効果を出すと考えている。

ベトナムの方など、その国の人たち同士のコミュニティーは、非常に発達していて、このコロナ禍においても、SNSやメールを駆使して、どの地域に行ったら暮らせるかであったり、仕事や給料の情報などが流通しているとのことで、苫小牧に暮らしやすさなどをアナウンスができれば、外国人にも就労・居住先として選ばれると思う。

また、外国人には、日本のお店の看板なども読めないのだから、情報弱者にしないためにも、易しい日本語やルビを振るなどの配慮をするように市からの取組が必要だと考

えている。

2つ目は、企業誘致が非常に大切と思っている。

多くの方が転勤で市内に来ていることは承知しているが、どれだけ家族と一緒に帯同されているかが気になっており、もし来ていないのならば、教育水準が遅れている、低いといった話も聞くので、苫小牧市としての特徴ある教育などを考えていきたい。

#### <M 委員>

私の体験に基づいた話となるが、学生時代に市内の企業のことを知る機会が少なく、高校3年生の就職活動のときにやっと調べて知ることができたので、企業には学生を対象にインターンシップなどの取組をしていただきたい。

また、現在はホテルに勤務しており、宿泊者は、スポーツ団体、観光客、ビジネスのお客様が多く、特にアイスホッケーと陸上の方が多いという印象を持っていたが、日高や標津、網走などは更に多いということで、サッカーなど他の競技の受入もしていくことで、苫小牧はまだまだ伸びしろがあると思った。

#### <N 委員>

大学に勤めているという立場としても、地元企業と学生のつながり強化に力を入れていかなければいけないと思っている。

基本目標1に関連し、インターンシップも含めて、どのように学生と市内の方々と交流の機会をつくれるか、若者の参加の機会を増やし、世代を超えた付き合い方を覚える、様々な学生のためになるようなつながりを、会長とは別に模索していきたい。

#### <総合政策部長>

総合戦略について質問があったが、こちらは、苫小牧市の人口想定と目標を定めて、どのような取組をして、その目標に向かっていくかをまとめたものである。

こちらの委員会では、現在2期目に進んだ総合戦略の事業展開に対して検証をしていただきながら、さらに新たな取組について皆さんに意見をいただき、人口を維持していきたいと考えているので、ご理解いただきたい。

総合戦略の策定から4年が経ち、今年から第2期に突入しているが、この間に市では、人口減少に歯止めをかけるべく、様々な事業展開というのを行ってきた。

しかし、人口減少を食い止めることは大変難しく、減少幅を最小限にとどめて、都市経営を持続可能なものにしていくかという視点に立った戦略がこれからも必要に

なると考えている。

道内主要都市と比較すると、減少幅が1桁少ない状況にあり、この計画の取組が少なからず影響していると、私どもは思いたいわけで、これは、苫小牧が産業都市として雇用の場がある程度確保されている点が大きな要因と考えている。

市としては、こうした本市の優位性を生かし、企業の支援や企業誘致による雇用の場を確保して、本市への居住の定着につなげるとともに、まちの魅力というものも高めて、住みよさランキング1位を目指して頑張っていきたいと思っている。

人口減少対策は、即効的に解決できるものではないと考えており、これまでの事業を検証し、皆様のご意見を伺いながら、本市の特色を生かした次なるステージに向けて、取組を進めていきたいと思うので、今後とも皆様のご指導、ご協力をよろしくお願いしたい。